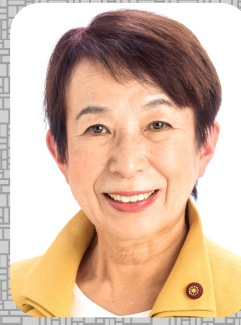


すわみつえ通信

No.285 2023年9月25日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

市民の声が届く福祉・教育優先の街づくり、命・くらし・平和守る市政に

すわみつえ一般質問から

「教育行政」と「介護保険事業」の2項目を質す

すわみつえ市議は9月19日（火）

に一般質問を行いました。質問準備での情報提供のご協力とご支援に、また質問当日、多くの皆さんが傍聴に駆けつけてくださったことに、心より感謝申し上げます。

「魅力ある楽しい学校づくり」はすべての児童生徒に重要な視点である」と答弁

教育行政では、不登校児童生徒の問題を質問しました。その要因を「子ども自身や家庭にある」かのような答弁でした。2020年に文科省が出した「不登校児童生徒への支援のあり方について（通知）」では「魅力あるよりよい学校づくりや児童生徒の学習状況等に応じた指導・配慮を実施すること」としていることから、この「通知」の下、教育委員会は不登校問題の根本は何と考えているか迫りました。

質問に「『魅力ある楽しい学校づくり』は、すべての児童生徒にとって、学校が安心・安全な居場所となるために大変重要な視点で

あると捉えています。」と「通知」に基づく答弁に変わりました。

子どもたちが安心して自分らしく暮らしていくために「楽しい学校」にしていく責務が教育委員会にはあります。

市独自で上昇する保険料を引き下げる措置を行うことを求め質問しました

介護保険事業では、介護保険料を引き下げるための質問をしました。自公政権は消費税増税の実施前、「増税で財源を得られたら1兆円の国費を投入し、介護保険の公費負担割合を現行の50%から60%に引き上げる」と主張していましたが、消費税の増税が行われても公費10%引き上げは行われていません。高齢者が増えてサービス利用が増えれば給付費が上がり、保険料に跳ね返る仕組みとなっています。

保険料上昇を抑えるには、市独自で一般会計からの繰り入れや基金の取り崩しで保険料を下げる必要があると。残念ながら、「介護保険料の上昇を抑制するために、介護予防事業や総合事業に取り組みんでいます。」との答弁でした。保険料引き下げの運動とともに声を上げていきます。

9月議会閉会となる

【決算の特徴】

コロナ下にて地方創生臨時交付金を活用しての小中学校給食費3カ月間無償、エネルギー価格高騰等への支援金給付が行われました。一般会計・特別会計すべてにおいて黒字となりましたが、一般会計の市債現在高は408億1331万円です。一方で、基金合計は財政調整基金34億453万円含めて110億7421万円です。

執行部議案15件に賛成し、5件に反対しました

鴻巣市議会9月定例会は9月21日（木）に閉会しました。日本共産党は執行部提案20件のうち15件に賛成をし、5件に反対をしました。

日本共産党の議員提出議案2件は「『核兵器禁止条約』に署名し、世界の核兵器廃絶運動の先頭に立つことを求める意見書」と「県営水道の料金20%引き上げ試算を見直し、料金引き上げを回避することを求める意見書」です。賛成討論を行い賛同を求めましたが、賛成少数で否決となりました。

【俳句コーナー】

日本の四季がジャカルタに

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

埼玉県 インフルエンザ流行注意報、患者増加で発令、 9月に注意報発令は初 ～咳エチケット、手洗いの励行を～



埼玉県は9月20日、県内でインフルエンザ患者数が増加しているとして、流行注意報を発令した。9月に注意報を発令するのは、統計のある1999年以降初。

県感染症対策課によると、県内261カ所の定点医療機関で流行状況を把握している。9月11日～17日の1定点当たりの報告数が、前週の5・94人から11・07人に増加し、県が定める注意報発令基準値の10人を超えた。保健所管理別の1定点当たりの報告数は、川口市保健所18・55人、幸手保健所

18・00人、南部保健所17・00人の順に多かった。

同課担当者は流行時期が例年より早い理由について「はっきりとは分からない」としつつも、3月の春の流行以降1定点当たり1人で推移していたことに触れ「（春の流行が）収束しきれていないまま、9月の流行に入った形だ」と話した。（埼玉新聞 9月21日付）

今後、県内における流行の可能性がありますので注意が必要です。インフルエンザの感染を予防するためには、「咳エチケット、手洗いの励行、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取」がポイントです。（埼玉県保健医療部 感染症対策課 9月20日 <報道発表資料>）

**マイナンバーカード
受診・利用不能
77万件（8月）**

**健康保険証廃止
でなく存続を！**

マイナンバーカードと保険証を一体化した「マイナ保険証」をめぐる、厚労省が全データの総点検を行っています。ところが、マイナンバーと医療情報のひもつけ作業が終わっていないため、医療機関の窓口で「マイナ保険証」を利用したオンライン資格確認が行えない事態が起きています。（8月24日現在で77万件）

トラブルの原因は、政府が「来年秋の保険証廃止」などを急激に推し進めたことにあります。そのうえに岸田政権はさらに、運転免許証、母子健康手帳、介護保険証などとの一本化をねらっています。

こんな状況で強行すれば、トラブルがさらに拡大する危険があります。国民の意見を聞き、来年秋の保険証廃止を撤回、存続すべきです。



ロシアのネベンジャ氏（中央）=20日

ロシアの反発、議長が一蹴 ウクラ イナ大統領の安保理演説―国連総会

【ニューヨーク時事】 ウクライナ情勢に関する国連安保理首脳級会合で9月20日、同国のゼレンスキー大統領の演説順にロシア側が反発し、紛糾する一幕があった。議長を務めるアルバニアのラマ首相が一蹴。安保理での溝の深さを印象付けた。「なぜウクライナの大統領が優先されるのか」。会合開始直後、ロシアのネベンジャ国連大使が、15理事国より先にゼレンスキー氏の演説が予定されていることに異議を唱えた。

ラマ氏は「ルールの特別な運用ではなく、確立された慣例だ」と説明。ネベンジャ氏は引き下らず、過去にゼレンスキー氏が安保理でオンライン演説を認められたことも特別扱いだったと、不満をまくし立てた。これに対しラマ氏は「解決策がある」と切り返し、「あなた（ロシア）が戦争をやめれば、ゼレンスキー氏が演説する必要はない」と言い切った。

ネベンジャ氏はその後もラマ氏への批判を続けたが、最後にはラマ氏が押し切り、討議が始まった。ネベンジャ氏はゼレンスキー氏の演説中、携帯電話を操作し続けて「無視」。ロシアのラブロフ外相は自らの演説順まで姿を現さず、ゼレンスキー氏と顔を合わせることはなかった。（時事通信 9月21日付）